

NEWS RELEASE

<<http://www.takara-bio.co.jp>>

平成22年9月17日
TB10-328

株式会社エムズサイエンスと抗がん剤事業の 譲受に関する独占的協議を開始

タカラバイオ株式会社(社長:仲尾功一)と、株式会社エムズサイエンス(代表取締役:三田四郎)とは、エムズサイエンス社が開発を進めている抗がん剤(腫瘍溶解性ウイルス HF10)に関する事業を、当社が譲り受けることについて独占的に協議を行うことに合意し、9月17日付で覚書を締結しました。

HF10 は、エムズサイエンス社が抗がん剤として開発を進めている単純ヘルペスウイルス1型の弱毒型自然変異株です。HF10は、がん細胞に感染すると細胞内で増殖し、がん細胞を死滅させる作用を有することが動物実験などにおいて示されており、このような抗がん作用を持つウイルスは腫瘍溶解性ウイルスと呼ばれています。

エムズサイエンス社は、現在米国において、頭頸部がんを対象とした HF10 の第 I 相臨床試験を実施しています。また、名古屋大学医学部附属病院において、乳がん、頭頸部がんおよび膵臓がんの患者を対象とした HF10 の臨床研究が既に実施されており、その安全性と有効性を示唆する結果が報告されています。

HF10 は、ウイルスを利用した新しいタイプの抗がん剤であり、その開発・製造には当社が保有するウイルスベクターの製造・解析技術など遺伝子治療に必要な技術・ノウハウを最大限に活用することができます。

現在当社が開発を進めている体外遺伝子治療プロジェクトに、体内遺伝子治療に分類される HF10 プロジェクトを加えることにより、遺伝子医療分野の開発パイプラインの拡充を図ることができると考えています。

今後エムズサイエンス社との間で、事業の譲り受けの条件などについて協議を行っていきます。

当資料取り扱い上の注意点

資料中の当社の現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣の判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づきなされたものであります。実際の業績は、さまざまな要素によりこれら予測とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢、特に消費動向、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社の既存製品および新製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的所有権に対する侵害、急速な技術革新、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

この資料は、9月17日に京都経済記者クラブに配布しています。

この件に関するお問い合わせ先
タカラバイオ株式会社
バイオインダストリー部
Tel 077-543-7235

<参考資料>

【エムズサイエンス社の概要】

会社名 : 株式会社エムズサイエンス
設立 : 2000年
代表取締役 : 三田 四郎
資本金 : 10百万円
住所 : 神戸市中央区港島南町5丁目5番2号
神戸国際ビジネスセンタービル
事業概要 : 医薬品の研究開発
ホームページ: <http://www.m-sci.com/>

【語句説明】

腫瘍溶解性ウイルス

腫瘍溶解性ウイルスとは、正常な細胞内では増殖せず、がん細胞内において特異的に増殖する制限増殖型のウイルスです。増殖によって直接的にがん細胞を破壊し、さらにその際に放出されたウイルスが周囲のがん細胞に感染することで、がん全体を縮小することが期待されます。

単純ヘルペスウイルス1型

単純ヘルペスウイルス1型は、唇にできる口唇ヘルペス(口内炎)や、眼の角膜にできるびらん(単純ヘルペス角膜炎)などの原因となります。感染しても、多くの場合は症状をあらわすことなく体内に潜んでいます。ストレス・過労・病気などの要因で体力が低下すると症状をあらわします。